



アカシア便り

第 5 号

平成 19 年 10 月 8 日

安達 嘉也

安達真希子 作成

秋の大運動会

9月22日、大連日本人学校では、今年の夏完成したばかりの人工芝のグラウンドで秋の大運動会が行われました。全校209名が赤組と白組に分かれての運動会です。大連日本人学校と交流している中国の小学生や中学生との合同競技もあり、とても盛り上がりました。大連日本人学校のよさは、なんと言っても幼稚園、小学校、中学校が合同で行事に取り組むことです。ここで、中学部2年の学年通信を紹介したいと思います。

応援練習から

最近の生活ノートには応援練習や運動会練習のことがよく書かれています。最近赤白共に、応援歌の練習が本格化し、声もよく出るようになったという感想が書かれています。しかし、次のような感想も見られます。

「小学部4年生はみんな歌詞を見ずにとっても大きな声でリードしてくれているという感じでした。中学部もプライドを捨てて、思いっきり歌ってほしいです。」というものです。この運動会で一回りも二回りも大きく成長するためにも、恥ずかしいなどという感情は取り払い、本気になって声を出し、歌ってほしいと思います。自分を出し切ると、達成感や充実感は一層高まるものと考えます。

中学部の生徒は、忙しい学校生活の中で、応援合戦等を企画し、一生懸命取り組みました。この一生懸命さや下級生をリードする頼もしさは、確実に小学部の児童、特に高学年にすばらしい影響を与えています。一方で、中学生も多感な時期に、小学生の必死に歌う頑張りや素直さに自分自身を見つめ直すことができるようです。小学部、中学部の連携や交流の素晴らしさを日々感じています。



この2枚は中国の子どもたちとの合同競技です。言葉は通じなくても自然と協力し、笑顔で応援し合いました。

大連日本人学校には指定の体操服はないので、自分の組の色のTシャツを着て参加している児童生徒が多かったです。

～今月の中国語～

第2回目は、お礼の言葉です。みなさんもこの言葉はどこかで聞いたことがあるのではないのでしょうか。中国の人はとてもやさしい人が多く、相手が知らない人でも困っていると必ず助けしてくれるので、私たちもとてもよく使います。

ありがとう→「^{シエシエ}謝謝」 ありがとうございます。→「^{シエシエニン}謝謝您」

どういたしまして→「^{ビエクゥチ}別客气」